

校内研究 4 つの取組の 5 点セット

学級経営 5 点セット

校内研究 テーマ	知識・技能を活用し、熟考する子どもの育成 ～1人1台端末の活用を通して～
重点目標	豊かなコミュニケーション活動の土台を育む人間関係の醸成
達成指標	(1) 「自己・他者肯定感テスト」において、「自己・他者肯定群」に位置する児童が全体の84%以上
重点的取組	(1) 4つの取組のブラッシュアップ及び相互に関連付けた取り組み ①フリートーク ②ほめ言葉のシャワー ③成長ノート ④価値語
取組指標	<p>(1) 4月の研修で、4つの取組を相互に関連付ける取り組みについて、昨年度までの取り組み例を伝え合ったり、昨年度までの課題を確認したりして、今年度の取り組み方について共通理解する。8月の研修で、学年ごとに7月までの成果と課題をまとめ、後期に向けてブラッシュアップする。</p> <p>①4月にフリートーク公開・事後研を行い、フリートークのねらいや取り組み方について、共通理解をする。学年内で児童が互いにフリートークを見合い、ブラッシュアップさせていく。前期後期に各1回ずつ、研修にて各学級の取組について振り返り、改善していく。</p> <p>②ほめ言葉のシャワーについて、6月の研修でねらいや取り組み方について共通理解し、6月以降に実施していく。取り組み方を工夫し年間で2巡できるようにする。後期の研修で、各学級での取り組み方（1巡目・2巡目のやり方、板書の仕方、教室掲示等）を持ち寄ったり課題や困りを出し合ったりし、改善していく。</p> <p>③成長ノートは、4月の研修で共通理解をし、各学級で実施する。主に行事や節目の時に、自分の取組を振り返り、付けた力を自覚できるようにしたり、次の目標を持たせたりする。目標に向け、自分の達成具合が分かるように、継続して書かせる。8月の研修で、気になる児童や変容の見られる児童の成長ノートを持ちより、「いつ、どんな内容で書かせたか、それをどう活用したか」など、意見交流し、後期の取り組みにつなげていく。</p> <p>④価値語は、4月の研修で共通理解をし、各学級で実施する。8月の研修で教室掲示を持ちより、「どんな価値語によって、どのように子どもたちが変容していったか」などについて意見交流し、後期の取組につなげていく。</p> <p>※ 必要に応じて、学年部において、朝の会観察シートの視点をもとに、共通理解を図りながら改善を図る。状況に応じて後期は、指導教諭等により朝の会を中心とした学級の参観を依頼し、「朝の会観察シート」等により自己評価を行い、改善していくよう指導・助言を受ける。</p>
外部評価	学校評議委員や指導主事等を年間2回程度招聘し、状況を確認及び評価していただく

県の改善の重点を受けた授業研究5点セット

校内研究 テーマ	知識・技能を活用し、熟考する子どもの育成 ～1人1台端末の活用を通して～
重点目標	県による「各教科の改善の重点」を具現化した各教科の授業の構築と授業公開
達成指標	① 令和4年度小中学校教育課程研究協議会（12月）にて、レポート提出及び本校作成の単元及び授業プランを、授業公開等を通じて発信 ② 指導教諭等による評価の平均が3.0以上
重点的取組	① 県による「各教科の改善の重点」の分析、また本校の課題及び具体的な取組を明確にし、それを具現化した授業づくりと授業公開を行う。 ② 指導教諭等による授業参観及び、指導教諭等による指導・助言をもとに授業改善を行う。
取組指標	① 県による「各教科の改善の重点」を受け、教科ごとに再度分析しなおし、本校における現状と課題、及び改善を図るための具体的な取り組みについて、各教科で再検討し完成させる。それをもとに、日常的に授業実践していくようにする。 ① 5月～6月に、外国語を除く全教科計12本について、「授業公開」を3日間で実施する。後期は、校内研の中で5本授業を実施する。外国語においては、7月に「外国語授業づくり研究会」、11月に「外国語セミナー」を実施する。 ① フォローアップ研修で公開する4教科（社会科、算数科、音楽科、家庭科）の授業動画撮影を行い、県下の公立学校へ周知・公開していく。 ② 授業公開後は全体・教科ごとに事後検討会（指定討論形式）を行うとともに、指導教諭等は「授業観察シート」に沿って評価を行う。指導教諭等による指導・助言をもとに授業改善に生かしていく。
外部評価	学校評議委員や指導主事等（県教委義務教育課・大分教育事務所）を年間2回程度招聘し、状況を確認及び評価していただく

外国語活動・外国語科5点セット

校内研究 テーマ	知識・技能を活用し、熟考する子どもの育成 ～1人1台端末の活用を通して～
重点目標	積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする児童を育む授業の推進
達成指標	① 指導教諭による評価（4段階）が、1・2年目の教諭2.7以上、3年目以上の教諭3.0以上 ② 授業参観後のアンケートで、参観者の自校での活用率が6割以上
重点的取組	① 課題解決へ向けた授業づくり・互見授業の実施 ② 公立校への授業公開
取組指標	① について <ul style="list-style-type: none"> ・4月の校内研究において、「4R」、「Classroom English」、「外国語科・外国語活動指導のポイント」等、これまでの取組について共通理解を図る場を設ける。 ・5～7月の校内研究において、これまで取り組んできた「子どもの実態に合わせたねらいを提示するタイミング」、「漆塗りの授業の展開の仕方」、「C児への支援」等について共通理解を図り、外国語部と学年部が連携しながら授業づくりを行う。また、昨年度指導を受けた項目「児童の思考を促す適度な困りの設定(思考・判断・表現, 主体的に学習に取り組む態度につながる目的・場面・状況の設定)」「中間評価の在り方」「ALTの効果的な活用」について、実際の授業を通して課題解決に取り組む。 ・外国語部と各学年部が連携し、指導案作り、授業づくりを行う。 ・5～7月に、指導教諭・研究主任・外国語担当・学年部による互見授業を学年1名以上設定し、改善へつなげる。後期に、今年度赴任した教諭による授業公開を行う。 ・7月の外国語授業づくり研究会では、外国語部が校内だけでなく地域の学校等に向け「『漆塗り』の授業展開の在り方(単元構成)」「評価の在り方」に関する授業を公開し、共通理解を図る。 ② について <ul style="list-style-type: none"> ・外国語授業づくり研究会(7月28日)や外国語セミナー(11月22日)において、事前授業や当日授業を公開する。(指導主事等や中学校に声をかける。) ・要請があれば、他校からの視察日を設定し、積極的に視察を受け入れたり、外部講師として出前授業を行ったりする。
外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語授業づくり研究会において、指導主事等を年間1回程度招聘し、進捗状況を確認及び評価していただく。(指導主事等の招聘は、カリマネや提案授業と連動する) ・11月22日(火)に開催の外国語セミナーにおいて、直山木綿子視学官を招聘し、本校の取組を評価していただく。 ・附属中入試後の1月に6年生のみ外部評価(英検2500円、うち一部保護者負担)を行い、本校の6年間の実践の成果を図る。

生活科・総合的な学習の時間 5 点セット

校内研究 テーマ	知識・技能を活用し、熟考する子どもの育成 ～1人1台端末の活用を通して～
重点目標	附属小学校のめざす生活科・総合的な学習の時間の資質・能力の達成
達成指標	前期：「めざす資質・能力」を意識した授業の実施（通知表の評価と連動） 児童アンケートで肯定的な回答 80%以上（R3 年度達成指標 75%） 後期：前期の分析をもとに「めざす資質・能力」を意識した授業の実施 児童アンケートで「整理・分析」場面で肯定的な回答 85%以上
重点的取組	①学級ごとに探究のサイクルを意識した単元計画（プラン）と評価規準の作成・実施 ②思考ツール辞典への実践事例の追加 ③附属小学校のめざす生活科・総合的な学習の時間の資質・能力の外部への発信 ④提案授業・互見授業の実施（一人一回以上） ⑤「めざす資質・能力」の達成が見取れる児童アンケートの作成，検討，実施，分析（アンケート実施は6月と2月，3年生以上全学級）
取組指標	<ul style="list-style-type: none"> ・①については，年度初めの校内研究で単元作り等の研修を行う。「附属小資質・能力一覧表」を元に，各学級で単元の具体的な評価規準を作成し，定期的に生活・総合部，学年部で進捗具合のチェックや修正，全体でその都度成果と課題の交流を行い，おおまかな今後の授業展開を考える。 ・②については，整理・分析場面の授業の際，ワークシートや板書等，思考ツールを使用する場面を積極的に設定する。 ・③については，修正・見直しが必要な場合は適宜生活・総合部会を持ち，修正していく。ホームページ等で発信も行う。 ・④については，一人一回以上の生活科・総合的な学習の時間の提案授業を指導教諭の授業観察に位置付け，指導教諭・研究主任・生活担当・総合担当・（学年部）で参観・事後研を行う。 ・⑤については，総合部を中心に作成しているアンケートを実施し，経年比較が出来るようにする。アンケート実施後，担当で分析し授業改善等を検討する。
外部評価	年間3回程度指導主事等を招聘し進捗具合を見てもらう （指導主事招聘はカリマネや提案授業と連動していく）